沖縄水海研セ事報 74, 46—46 (2013)

日本周辺高度回遊性国際語類資源調査委託事業

平手康市*, 南洋一

マグロ類・カジキ類は，沖縄県の漁船漁業において，水揚量・額ともに最も多く，本県の水産業における最重要魚種となっている．高度回遊性魚類であるマグロ類・カジキ類の資源管理は県単独では対応が不可能で，国際的な取り組みが進められている．我国では独立行政法人水産総合研究センターがその取り組みの中核であり，そこと共に水産庁から JV 委託を受けた後，予算配分を受けてマグロ類・カジキ類の資源管理に必要な情報を収集した．

国際的な太平洋クロマグロの資源管理に対応するため，本種の主要産卵海域である南西諸島海域及び日本海において，水産庁の委託により本種の卵稚仔を採集して，その産卵状況，卵稚仔の分布状況に関する調査を実施した．本県が担当した調査海域は，沖縄西方海域，沖縄島−大東諸島間海域及び宮古島東方海域の 3 海域で，それぞれに設定した調査定線上において漁業調査船「図南丸」を運用して，2m リングネット表層水平曳きによる卵稚仔採集，CTD 観測及び ADCP 観測を実施した．調査航海は 5 月から 7 月に各調査海域において 3 航海，合計 9 航海を実施し，調査海域におけるクロマグロの卵及び仔魚の出現状況及び海洋環境を調査した．

本県周辺海域はクロマグロの産卵海域であり，4〜6 月にかけて成熟個体が多く漁獲されており，資源管理において重要なデータを平成 4 年から国へ提供している．調査内容は，平成 24 年 1 月から 12 月までの期間に，沖縄県内漁協及び県漁連のセリで取り扱われたクロマグロ，キハダ，メバチ，ビンナガ，シビ（キハダ及びメバチの 10kg 以下のサイズ），メカジキ，マカジキ，シロカジキ，クロカジキ，バショウカジキ及びフウライカジキの重量及び個体数を当センターの漁獲統計データベースを用いて集計した．また，4〜7 月までの期間に，糸満漁港内の沖縄県水産公社に水揚げされるクロマグロの尾叉長・体重測定，漁獲位置の聞取り調査を実施した．

本調査の結果は，「平成 24 年度日本周辺国際魚類資源調査委託事業報告会」において報告し，その内容は「平成 24 年度水揚地でのまぐろ・かじき調査結果」（独立行政法人水産総合研究センター刊）に記載されているので，当報告書では，その内容は割愛する．

*Email: hiratekc@pref.okinawa.lg.jp　本所